

# 世界の工業① ～ウェーバーの工業立地論～

## ウェーバーの工業立地論

生産費を最小にするために、工場(工業地域)をどのような場所に立地すればよいかを体系化したもの。

↳ 原料・製品の輸送費。次に労働費(人件費)

### ◎原料による立地場所の分類

① \_\_\_\_\_ ……どこでも入手可能な工業原料。  
Ex)ビール  
→ ② \_\_\_\_\_ に立地する。

③ \_\_\_\_\_ ……産地が限定されている工業原料。

④ \_\_\_\_\_ ……製造過程で、原料と製品の重量がほとんど変わらない工業原料。  
Ex)茶葉、石油  
⑤ \_\_\_\_\_ に立地する。

⑥ \_\_\_\_\_ ……製造過程で、製品の重量が原料に比べて大幅に軽いもの。  
Ex)鋳物

⑦ \_\_\_\_\_ に立地する。

## ◎立地から見た工業の分類

| 分類     | 特徴                                      | 例                           |
|--------|---|-----------------------------|
| 原料指向型  | 原料重量が重く、製品重量が軽い場合。                      | 鉄鋼・セメント・紙・パルプなど             |
| 市場指向型  | 製品重量が重く、市場の流行や情報を重視。輸送費が大きくなるため市場立地となる。 | 清涼飲料水・ビール工場・印刷・出版など         |
| 臨界指向型  | 海外原料に依存する加工輸出型工業。                       | 鉄鋼・石油精製・石油化学など              |
| 臨界港志向型 | 軽薄短小型の高付加価値製品                           | エレクトロニクス・半導体など              |
| 労働力指向型 | 労働力への依存が高い                              | 繊維(縫製品)・各種組み立て工業(電機機器・精密機械) |
| 電力指向型  | 大量の電力を使用。安価な電力を得られる場所(水力発電・火力発電)に発達。    | アルミニウム                      |
| 用水志向型  | 製造過程で多量の水(工業用水)を必要とする                   | 鉄鋼・化学繊維・紙・パルプなど             |

## ◎先進国の工業地域

①

生産過程の中で労働費の比重は大きい工業。繊維(軽工業)や電気器具の組み立て工業が典型例。賃金水準が高くなると、賃金水準が低い途上国へ移転。

②

生産コストのなかで、多額の設備費を必要とする工業。鉄鋼業や石油化学産業などが典型例。先進国で多く、途上国では国営化・国有されている場合が多い。

③

生産過程のなかで、高度な技術を必要とする工業。

## 確認問題

- 1.半導体は、小型・軽量でかつ価格が高いため、製品に占める輸送費の単価は相対的に安くすむ。そのため、半導体の生産地域は大都市圏から地方へと分散し、労働力を得やすく輸送に便利な空港周辺や高速道路沿いに工場が立地される傾向が強い。
- 2.ビールや清涼飲料水の主原料となる水は製造過程で重量が変化しない原料であり、原料産地と市場の間のどこでも輸送費は変わらない。そのためビール工場は賃金の高い東京周辺より、安価な労働力が得やすい地方にその多くが立地されている。
- 3.工業原料を外国からの輸入に依存する場合、原料を輸送する船舶が接岸する臨海部の港湾近くに工場を立地させることが便利である。セメント工場は原料を輸入にほぼ依存しているため、国内市場に近い太平洋ベルト地帯にその多くが立地されている。
- 4.鉄鉱石は、製造過程で製品の重量が原料に対して軽くなる重量減損原料であり、また製品には多量の電力を消費するため、従来は鉱山に近い発電所に隣接して製鉄工場が立地されていたが、現在は安価な電力が沿岸地域で得やすくなったため、静岡県内の蒲原などの太平洋側に集中している。
- 5.パルプ工業の主原料は原木と硬水であるが、ともに輸送費が高くないため、原料を遠隔地から輸送して生産する。さらにパルプ工場は排出物が少なく環境への負荷が小さい事に加え、パルプの生産量が市場の情報や流行に依存するため、大都市周辺に立地されることが多い。